



学校だより

11月号

横浜市立大道小学校
令和5年10月31日



← 学校 WEB ページはこちらから

* 9月より学校ホームページ(学校日誌)を毎日更新しています。ぜひご覧ください。

校長 加藤 和之

「充実の秋」

「大道ふれあい運動会」から10日が経ちましたが、まだ余韻が冷めやらぬ感じがします。温かいご支援、ご声援をいただき、ありがとうございました。また、今年もたくさんの保護者、地域の皆様に様々なお手伝いをいただきましたことを重ねて感謝申し上げます。

さて、よく「〇〇の秋」と言いますが、学校は是非とも「**充実の秋**」にしたいものです。

まずは冒頭で触れた、「大道ふれあい運動会」ですが、やはり「団体演技」が印象に残りました。どの演技にも共通して言えるのは、子どもたちが「全力」で表現していたことです。（「全力」は運動会のテーマにも入っているキーワードです。）可愛いながらも一生懸命に演技する低学年を見ていると、こちらまで笑顔になります。「よくここまで頑張ったなあ。」と思いました。フープを使った中学年は、「『元気』を届けよう!」というコンセプト通り運動量が豊富で、隊形変化も見事でした。休み時間にもフープの使い方を練習した成果が表れていました。そして、高学年の「大道ソーラン2023」は「圧巻!」の一言、「『全力』とは、こういうことだ!」と示すような、魂の演技でした。誰もが息を呑んで観ているためか、校庭全体が静かになったように思います。こうしてそれぞれを観ていると、子どもたちが「成長する」というのは、こういうことなのだ、改めて実感しました。保護者の皆様も、お子様の姿をご覧になって、感慨深いものがあつたのではないのでしょうか。

27日に金沢公会堂で行われた「区児童音楽会」に、3年生が出演しました。リコーダー奏では、指使いの速いアップテンポの曲にもかかわらず、息の合った美しい音色が公会堂に響きました。本番の数日前、保護者の皆様に歌と演奏を披露する機会があつたのですが、そこに昨年度の担任が聴きに来ていました。感想を求められたその職員は、「リコーダーを始めた2年生の時は、『大丈夫かな?』と思いましたが、難しい曲をこんなにきれいに吹けるなんて、びっくりしました。」と話していました。短い期間で技を習得した子どもたち、ここでも「成長」を実感しました。

5年生は、「横浜市起業家教育プログラム」に取り組んでいます。これは、市場調査、商品開発、資金調達などのシミュレーションを行い、会社経営に必要なことについて実感的に学ぶ取組です。先日、その第1回目として、実際に起業をされた方にお話を伺いました。その方は、様々な使い方ができ、持ち運びができるサイズの「ホワイトボード」を開発・販売する会社を起こしました。しかし、そこに至るまでに様々な「壁」が立ちはだかります。それらをどう乗り越えていったのかということについて、具体的に話してくださいました。そして、最後に「起業とは何か」を語ってくださいました。その方いわく、「世の中にある課題を発見し、それに対する独自の解決法を考え、それを世に問うこと」だそうです。困難にぶつかった時に、どう乗り越えていくかという、まさに「生きる力」を育てる学びにつながると感じました。

「充実の秋」、次は全校で取り組む「なかよし遠足」へと続きます。